京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

平成 30 年 10 月 8 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　　藤　　洋 作　様

所属部局・研究科　京都大学大学院医学研究科 侵襲反応制御医学講座（麻酔科学）

職 名・学 年　　博士課程 3年

氏　　名　　廣津 聡子

助成の種類	**平成 30 年度 ・ 国際研究集会発表助成**	
研究集会名	Euroanaesthesia 2018	
発表形式	☐ 招待 ・ ☐ 口頭 ・ ☑ ポスター ・ ☐ その他(	
発表題目	Successful anesthetic management of a living-donor liver transplant for a patient with severe methylmalonic acidemia: A case report.	
開催場所	デンマーク コペンハーゲン Bella Center Copenhagen	
渡航期間	平成 30 年 6 月 1 日 ～ 平成 30 年 6 月 6 日	
成果の概要	**タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ☑ 無 ☐ 有(　　)**	
会計報告	交付を受けた助成金額	300,000 円
	使用した助成金額	300,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助成金の使途内訳	航空券代 142,110 円
		参加費用 80,000 円
		宿泊費（一部） 77,890 円
当財団の助成について	この度は、多大な助成をいただき、貴重な海外発表と学術的研鑽を積む機会を得ることができました。渡航日程が助成開始間もない時期でしたが、迅速にご対応くださり感謝しています。本助成を賜りました貴財団および関係各位に、心より御礼申し上げます。	

成 果 の 概 要

京都大学大学院医学研究科
侵襲反応制御医学講座（麻酔科学）博士課程
廣津　聡子

【学会の概要】
学会名：2018 年欧州麻酔学会年次集会（ESA 2018）
開催地：デンマーク王国　コペンハーゲン
開催期間：2018 年 6 月 2 日～6 月 4 日

【学会内容】
欧州麻酔学会（ESA)は年に 1 回、ヨーロッパ各国持ち回りで開催される、麻酔科学に関する学会である。麻酔科医のみならず、集中治療医、看護師、臨床工学技士と、麻酔以外の多くの医療従事者が集う本会は、例年 6,000 人前後が参加し、10 月に開催される米国麻酔学会年次学術集会と並んで、麻酔科学に関する世界規模の学会である。期間中は基礎医学から臨床研究、合併症麻酔や希少症例などの症例報告に関する発表のほか、米国麻酔学会、日本麻酔科学会などとの共同セッションやワークショップなど、多様なプログラムが開催される。今回の ESA2018 でも演題登録数が 1,300 程度に登り、とても充実した学会であった。
私は現在大学院で、揮発性麻酔薬および敗血症に関する基礎研究を行っているが、今回は臨床分野で、重症代謝性疾患小児に対する生体肝移植の周術期管理について発表をさせていただいた。メチルマロン酸血症をはじめとする遺伝性代謝性疾患に対して、近年肝移植によって予後が改善することが近年報告されてきている。患児は有機酸が蓄積することで代謝性アシドーシスが生じやすいことから、周術期管理を慎重に行う必要がある。特に術中においては、ストレスに暴露されることで原疾患による代謝性アシドーシスが進行するリスクに加え、肝移植中の無肝期に嫌気性代謝が進行するため患者はより代謝性アシドーシスに陥りやすく、いかに進行を抑えて管理するかが麻酔管理上の鍵となる。しかし、既報告が少ないため、各施設で個々の担当医が管理していることが多い。今回の学会では、その希少症例の発表とともに、管理法に関する議論を行い、将来的な管理法確立にむけての改善点を見出すことが目的であった。
小児麻酔セクションでの発表であったが、どの演題も興味深く、フロアからの質問や議論が活発であったため、とても充実した時間を過ごすことができた。各国で、使用する薬剤や手術室の環境などが少しずつ異なるが故の演題や議論も多く、日本では味わうことのできなかった経験であった。

また同じセッションで発表した先生と、演題に関して発表後に個人的に話すこともでき、新しい出会いにも恵まれた。
招待講演や教育セミナーでも、質疑応答時間が比較的ゆとりを持って設けられており、活発な議論がなされていたのがとても印象的であった。現在大学院で行っている研究分野に関する知見を広げることができ、多くの収穫があった。
コペンハーゲンは運河に囲まれた美しい街並みで、近代的なデザインの建築物と歴史的な建造物が見事に融合されていたのがとても印象的であった。会場となった Bella center はコペンハーゲン郊外のスタイリッシュなホテルに近接する大型のイベントスペースで、すっきりとした北欧デザインを存分に満喫した一方、宮殿や市庁舎などは完成当時の趣をそのまま残し、北欧史を肌で感じながら期間中を過ごすことができた。このような場所で発表をすることができたことをとても幸せに感じた学会であった。
最後になりましたが、この度の学会発表にあたり、多額の助成をいただきましたました京都大学教育研究振興財団の関係者各位に、心より御礼申し上げます。